

編集後記

今号も読みごたえのある論考が集まりました。ご執筆の先生がたに心からお礼申し上げます。インタビューの前、西島先生を京大病院の待合室にお迎えに行きました。稲盛財団記念館に向かおうとタクシーを止めると、先生はさり気なくドアに手を添えて私を先に乗せてくださいました。レディーファーストが身に付いた、先生のやさしいしぐさと笑顔が、今も胸に残っています。(吉川)

この夏、京都の山でナラ枯れが大量に発生した。たびたび比叡山に登っているのでナラ枯れの状態を目撃するのはつらいものがある。山歩きを通して自然と人間との共生は生易しくないことを痛感している。さて今回、本号は、ナラ枯れとは反対に、豊かな果実を実らせている。原稿をお寄せくださった先生方に心よりお礼申し上げます。(鎌田)

いわゆる“ロストジェネレーション”に属する者にとって、今号の「日本の若者の問題」についての記事は他人事ではない。すでに「若者」などとは言ってられない年齢となったわが世代の「未来」がどこに向かうのか。などとメタ視線で眺める余力もないまま、諸事に追われる内に「こころの未来」も5号発行となっていた月日の早さに驚かされる初秋の一日である。(平石)

西島先生のお話から、困難な状況にあっても、これまでの蓄積を生かしてのびやかに新しい創造へむかうところを教えていただきました。今号から編集のお手伝いをさせていただくことになりました。どうぞよろしく願いいたします。(森崎)

初めてお会いした西島安則先生は、懐が深く、熱い志をもった方で、そのお話にこちらの心がかき立てられる思いがしました。完成した本誌をお見せできなかったのが悔やまれます。西島先生弟の西島昭様、京都市産業技術研究所の橋田章三様、京都市立芸術大学美術学部の辰巳明久教授、同大学事務局の近藤恵様はじめ、お力添えをいただいた皆様に心より感謝申し上げます。(原)

本誌4号25頁、60頁のe-Leaningはe-Learning、36頁「社会契約論」(1962)は「社会契約論」(1762)の誤りでした。お詫びして訂正いたします。(編集委員会)

こころの未来
KOKORO RESEARCH CENTER
KYOTO UNIVERSITY

第5号

発行日……………2010年9月30日

発行……………京都大学こころの未来研究センター

〒606-8501

京都市左京区吉田下阿達町46 京都大学稲盛財団記念館内

電話 075-753-9670 FAX 075-753-9680

<http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/>

編集委員……………吉川左紀子+鎌田東二+平石界+森崎礼子

表紙写真……………大石高典 コスモスと蝶(京都大学理学部植物園)

編集・制作……………編集工房レイヴン 原 章

デザイン……………鷺草デザイン事務所 尾崎閑也

印刷……………株式会社NPCコーポレーション